

ヨコスト湿原

「ヨコスト」はアイヌ語地名です。その解釈には2つの説があります。

- ①ヨコ（獲物をねらう）ウシ（いつもする）ト（沼）
- ②ユクシト（ヒシの実をとる沼）という意味からつけられた名前だとする説があります。

ヨコスト湿原は、面積33ヘクタール、国道36号線沿いに広がっている低層湿原です。太平洋に隣接し、海浜、海岸草原、湿地に適応した植物が早春から晩秋まで、生命の輝きをみせており、野鳥の生息地、渡り鳥の中継地として貴重な自然環境です。

2016年に環境省の「日本の重要湿地」に選定されました。



(★の看板が目印です)



- 苦小牧方面から36号線を白老市街地に入らないで、海沿いにカーブする箇所途中、左手、海岸側に入口があります。
 - 室蘭・白老 IC から、36号線を苦小牧方面に走り、旧国道との合流地点の信号でUターンすると、左手側に入口があります。
- ※(中央分離帯あり) 室蘭方面からは入れません。

湿原・海岸を守活動

ヨコストは、昔から地域の人々の生活の場、子どもたちの学びと遊びの場として、大事に守られてきました。砂浜から湿原までにはアイヌ民族が利用した植物や動物がみられます。

- 2009年 白老町環境町民会議「ヨコスト海岸クリーンアップ」開始
- 2015年 「ヨコスト湿原友の会」結成
- 2016年 環境省「日本の重要湿地」に選定
- 2017年3月 白老町環境町民会議が国土交通省の「海岸協力団体」に指定
- 2017年6月 「ヨコスト湿原」の看板設置



2017年8月 「夏の海塾」

これからもヨコスト湿原の貴重な自然環境を守るためにご協力をお願いします。



【白老町環境町民会議】

電話：0144-82-5110
Eメール: katudou@shiraoi-tc.jp

【白老町（生活環境課）】

電話：0144-82-2265
Eメール: seikatu@town.shiraoi.hokkido.jp
令和2年3月 発行

白老町にある原生花園

第3版 (初版：平成30年3月発行)



白老町
白老町環境町民会議
ヨコスト湿原友の会

〈支援・助成：一般財団法人 石狩川振興財団〉

ヨコスト湿原で 観察できる動植物

ヨコスト湿原には、季節により様々な動植物が生息していますので、その一部をご紹介します。

植物 (86科 463種)



コウボウムギ(春)



センダイハギ(春)



ホザキシモツケ(夏)



ツリガネニンジン(夏)



ナガボシロワレモコウ(秋)



ウンラン(秋)

野鳥 (28科 64種)



ニビタキ



コヨシキリ



オオジシギ



コミズク



コウライキジ



オオハクチョウ



アオバト



マガモ

昆虫 (69科 209種)



キアゲハ



クジャクチョウ



エソコヤマトンボ



ニホンカワトンボ



キタイトンボ



コサナエ

湿原の保全へのお願い

- ・ごみは持ち帰ってください。
- ・通路以外に車は乗り入れないでください。
- ・野鳥の巣がたくさんあり、沼地もありますので、むやみに立ち入らないでください。
- ・植物は採らないでください。